



代表
北見 裕秋

4歳でヴァイオリンを始める。ヴァイオリニストである妻が楽器選びに失敗したという過去を持つことから、1997年より弦楽器商をはじめ、Web上で「弦楽器の選び方」を啓蒙するように。その後、世間の弦楽器の価格に対する不明朗感を払拭するために、弦楽器 サラサーテをオープン。適切な価格での楽器販売に尽力している。

演奏家の個性に合致した弦楽器こそ名器ゆえに時間をかけ世界中から一挺を選ぶ

全国から多くの演奏家や愛好家が訪れる「弦楽器 サラサーテ」。著名なオールド楽器から新作楽器まで多数を取り揃える同店では、事前に実際に演奏される方のバックグラウンドを詳しく聞き、じっくりと腰を据えてコンサルをしながら、それぞれの個性に合致したヴァイオリンを選んでいる。

ヴァイオリンの価値基準

大門 私は商売柄、舞台音楽を耳にする機会は多いのですが、実際に音楽の話となると少々疎いと思っています（笑）。本日は素人質問が飛び出すかもしれません。そのあたりはご容赦ください。

北見 気になさらないでください。実際にヴァイオリンを奏でる演奏家の方でさえ、楽器のこととなると多くの知識をお持ちでないことがあります。また、演奏家を育てる先生方であっても、楽器選びに関してはプロフェッショナルではない方も多いのです。私は、そうした弦楽器におけるコンサルティングが仕事ですから、遠慮なく何でもお聞きください。

大門 先日、舞台音楽を奏でるヴァイオ

リニストの持つヴァイオリンの価格が1500万円と聞いて、目が点になりましたよ（笑）。これはヴァイオリンのレベルとしてはどの程度なのでしょう。

北見 立派な価格で、かなりの名器だと思います。ただ、ヴァイオリンには上があります。オールドの名器「ストラディヴァリ」では、3億円から12億円くらいまでの価格がつくものもあるんです。もちろん、下は10万円くらいからで、当店で扱っているものは30万円～100万円くらいまでのものが多いですね。

大門 一般に、「名器」と呼ばれるものはどこが違うのでしょうか。

北見 ヴァイオリンには2つの価値基準があり、その1つは「道具としての基準」です。構造がしっかりとしているか、材

料は良いものを使用しているか、古いものであれば保存状態は良好か、といった、「音を出す道具」としての基準。もう1つは「骨董的価値」としての基準です。イタリアの著名な製作家の手によることが明らかで、かつ保存状態が良い古いものは必ず骨董的価値が上がります。ただ、高価で古いヴァイオリンが必ず良い音を出すかと言えば、そうとは言い切れないのが難しいところ。

大門 では、3億のストラディヴァリが良い音を出すとは限らないと。

北見 ストラディヴァリは演奏家の使用歴などから本物の名器であることが多いのですが、産地や製作家の名前、受賞歴だけで価値がついているものの中には「鳴らない楽器」があります。私の妻はヴァイオリニストなのですが、ある時、著名な製作家の手で80年前に造られたという蔵出しの楽器（誰も使ったことがない楽器）を弾いたことがありました。そのヴァイオリンには600万円という価格がついていたのですが、妻曰く「鳴らない」。骨董品として見れば、600万円の価値があるのですが、道具としての価値は工場量産品にも劣るのです。ストラディヴァリは当時から名器だったと申しあげましたが、これは当時から「鳴っていた」からです。生まれてすぐ「鳴らない」楽器が、経年変化でいい音を出すようになることはありえない。構造上の欠陥は直らないということです。大門 名匠の手によるものでも、時には出来不出来もあるでしょうからな。

世界の名工が鑄を削る

大門 日本製のものはどうなのでしょう。手先が器用だし、日本人は緻密な作業に向いているような気がします。

北見 もちろん日本人製作のヴァイオリンにも良いものがありますが、あまり国籍は関係ないと思います。ヴァイオリンの製作技法、技術というのは2、300年前からほとんど変わっていないことをご

存知ですか？

大門 そうなんですか？技術が進歩していないということでしょうか。

北見 進歩していないというより、当時から完成されていたということです。今の製作家に課された使命というのは、いかに当時の巨匠たちの技術を模倣するかということ。形にしても材料にしても、新しいことにチャレンジした製作家は多々いると思いますが、結局、改良を受け付けられないのは、当時の技術が最高だからでしょう。木管楽器や金管楽器は変化しているのに、不思議ですよね。

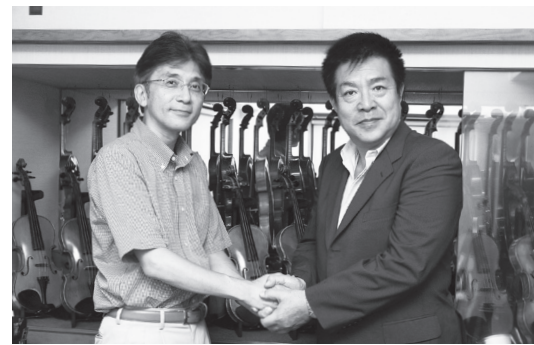
大門 設計図は万人に公開されているわけだから、誰でも名器を作り得る可能性があるというわけですね。

北見 そうなんです。200年前のヴァイオリンに名器があることも事実ですが、先ほど申したように、高価なヴァイオリンが名器とは限らない。腕の良い演奏家が知名度の高いヴァイオリンにこだわりすぎて楽器選びを誤り、演奏家としての才能が発揮されないこともあるんです。

自分に合った楽器こそが名器

大門 いかに自分に合ったヴァイオリンを探すかが、演奏家としての人生を左右すると言っても過言ではないのですね。

北見 そうです。ですから私はお客様にヴァイオリンを勧める際、演奏者としてのバックグラウンドや悩み、楽器に対する思いなど、様々なお話を事前に伺った上で、数台のヴァイオリンを選んでおき



ます。それらを弾いて頂き、気に入るものを探す。なければまた、方向性を少し変えて、数台選ぶ……この繰り返しです。しかしいきなりのご来店で、そこまで精度の高い仕事をするのは難しいですから、私の店では楽器選びを全て予約制にしています。最初に申し上げたように、演奏者の方が楽器に詳しいとは限りません。むしろ固定観念にとらわれすぎて、「間違った楽器選び」になっている可能性もあります。ですから私はそういった方たちのお手伝いがしたいのです。単なる商売ではなく、その人に本当に適したヴァイオリンを選びたい——。私はこれまでに何千もの楽器と出会い、その中から名器に通じる普遍的なエッセンスを求め、それを満たしたものを心と脳に焼き付けております。そうしたデータベースの中から演奏者の方にぴったりと当てはまるものをお渡ししたいですね。

大門 それほどのこだわりをお持ちだからこそ、全国から多くのお客様が集まるのでしょうか。これからもそのポリシーを守り続け、良い楽器を提供し続けてください。

Guest Comment>>

大門 正明（俳優）

北見代表の奥様はヴァイオリニストですが、かつて、ヴァイオリン選びで失敗し、悲しまれた経験をお持ちだそうです。奥様のような苦い思いを他の演奏家にさせてはならない。そんな気持ちが、北見代表の信念を形作っているのだと感じました。「この仕事に正解はない。でも、失敗の経験を持つ人でなければ、正しい楽器は選べない」との言葉が印象的でした。

